

# 中級日本語学習者の動詞と名詞のコロケーション—産出テストによる分析

鈴木 綾乃

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

## 要 旨

本研究は、中級日本語学習者のコロケーションについて産出テストを用いて分析を行い、母語話者との比較により学習者の特徴を明らかにしたものである。テストは、動詞「する」と共起する可能性のある名詞を文脈と共にあたえ、どのような動詞を産出するかを見たもので、台湾の大学で日本語を学ぶ学習者を対象に実施した。その結果、回答の異なり数は母語話者より学習者のほうが多かったが、個人の回答数は母語話者のほうが多かった。母語話者に比べ学習者は決まった表現を使っていること、母語話者は共通したコロケーションを持っているのに対し、学習者はそれが少ないか、持っていないことが推測される。また動詞「する」とのコロケーションについて比較すると、学習者は母語話者より「する」という回答が少なかった。このことから、学習者は母語話者より「する」を使わない可能性があると考えられる。

## 1. はじめに

言語学習において、より自然にその言語を書いたり話したりするために必要なことの1つとして、コロケーションの学習が挙げられる。たとえば Nation (2001) はこれまでに行われてきた研究をふまえ、“Language knowledge is collocational knowledge.”, “All fluent and appropriate language use requires collocational knowledge.”, “Many words are used in a limited set of collocations and knowing these is part of what is involved in knowing the words.”

(Nation2001 : 318) と、言語を習得する上でコロケーションが重要であると述べている。一方 Granger (1998) は、コロケーションの理想の教材を作るためには (1) 目標言語のコロケーションについての詳細な記述, (2) 学習者の母語のコロケーションについての詳細な記述, (3) 学習者が使う目標言語のコロケーションについての詳細な記述, という3つのデータが必要であると述べている (Granger1998 : 158-159)。(1) については、近年大規模コーパスの開発が進められていることもあり、様々な研究が行われている。しかし (3) のデータについては、母語話者のコロケーションと異なるものを使用したり、母語話者に比べコロケーションを使わなかったりすることが報告されているが、「詳細な記述」として

十分であるとは言えない（詳細は2）。

筆者はこれまでに、動詞「する」と名詞のコロケーションの習得について学習者言語コーパスを用いて分析を行ってきた（鈴木2009）。しかしコーパスだけでは、使われているコロケーションに限りがあるため、十分な分析であるとは言えない。そこで本研究では、中級日本語学習者の動詞と名詞のコロケーションについて、産出テストを用いて分析を行う。ただし、動詞と名詞のコロケーションの数は膨大であり（秋元・川井1996）すべてのコロケーションについて分析することは難しいため、鈴木（2009）同様「日本語の中で最も基本的な動詞である」（村木1991：204）「する」を中心に分析を行う。コロケーションの定義は研究者によって様々であるが（松野・杉浦2004）、本研究では「言語表現全般（語、語の連続、句、節など）のあいだに観察される習慣的な共起関係」（田野村2009：22）と定義する。ただし、この定義では「語の連続、句、節など」もコロケーションとしているが、今回はテストという形式上、語と語（名詞1語と動詞1語）の共起関係について分析する。

## 2. コロケーションの習得に関する先行研究

日本語コロケーションの習得に関する研究としては、秋元（1993，2002）、滝沢（1999）、小森（2003）、曹・仁科（2006a，b）、鈴木（2009）などが挙げられる。例えば小森（2003）は、英語を母語とする学習者を対象に、①コロケーションのテスト、②学習者言語コーパス、の2つを用いて分析を行ったものである。テストは、分析したい語1つに対して複数の語を与え、組み合わせ可能だと思うものを選択する、という形式で、母語話者にも同様のものを実施した。分析の結果、英語を母語とする学習者のほうが日本語母語話者よりもコロケーションの内省が弱い、許容できるとしたコロケーションの傾向は同じであることがわかった。またデータ②の分析結果からは、語彙的コロケーションには4つのタイプがあることが述べられている。さらに、誤用と英語のコロケーションを比較した結果、母語である英語の知識に頼った誤用が全体の85%を占め、英語を母語とする学習者は、コロケーション使用において母語の知識を使う、としている。

曹・仁科（2006a，b）はいずれも、形容詞及び形容動詞のコロケーションの習得について中国人学習者を対象として分析したものである。まず曹・仁科（2006a）は、中国人学習者の作文コーパスを用いて、形容詞及び形容動詞のコロケーションの習得の特徴を明らかにし、母語の影響を検証、それをふまえて教育への提言を行った。そしてこれを受け曹・仁科（2006b）では、「作文中の共起表現は数に限りがあることから、学習者表現の全体的な傾向を把握するために」（曹・仁科2006：31）テストを用いて分析を行った。テストは、「名詞を提示し、名詞の修飾語又は述語になりうる形容詞か形容動詞をできるだけ多く記入」する「自由連想形式」（曹・仁科2006：32）で行われ、母語話者と学習者に同じものを実施し、比較している。その結果として、母語話者のほうがバラエティ豊かな表現を産出することや、学習者の誤用が「共起、造語、漢字の移用、文化・文学、品詞の誤り、使用制限、「的」語の誤り」の7つのパターンに分けられることなどが述べられている。

鈴木（2009）は、上級学習者のコーパスを用いて動詞「する」と名詞のコロケーション

について分析を行ったものである。その結果、コロケーションの誤用はコロケーションの結びつき自体を誤っている「結びつきの誤用」と、コロケーションの結びつきは正しいが文脈を見ると誤用であると判断される「文脈上の誤用」に分けられ、このことから文脈などコロケーションの「外」の情報についても重視すべきであることが示唆された。なお、それぞれの例は以下の通りである。

#### 「結びつきの誤用」

(例) 彼女の歳についての\*質問をやらないでください。(質問をしないでください)

#### 「文脈上の誤用」

(例) “戦争にならないだろう”と私が言ったら、“それは言えないよ。もしの場合になったら、上海は一番大変ですよ”とかなり両親思いの\*返事がしてきました<sup>1</sup>。(答えが返ってきました)

さらに、類義語や類義のコロケーションを混同していると考えられる誤用が見られたことから、類義の動詞や名詞、コロケーションを整理して示す必要がある、と述べている。

英語のコロケーションの習得に関する研究は日本語よりも早い段階で行われており、その数も多い (Farghal and Obiebat (1995), Granger (1998), Howarth (1998), Sugiura (2002), 小林 (2005) など)。例えば、Farghal and Obiebat (1995) は、2つのグループの学習者について、それぞれ異なったテストを行い、分析したものである。1つは、穴埋め形式で、日本語を専攻している大学3、4年生を対象とした。もう1つは学習者の母語であるアラビア語から、目標言語である英語への翻訳テストで、5年～10年の英語教師経験のある、翻訳クラスを履修している学生に対して行った。そして、どちらのグループの学習者も、「類義語」「回避」「翻訳」「言い換え」の4つのストラテジーを働かせている、と報告している。また、Granger (1998) は、-lyで終わる増幅詞 (amplifier) が修飾語として働く場合のコロケーションについて、①学習者コーパスと②テスト、という2種類のデータを用いた研究である。テストは、小森 (2003) と同じ形式のもので、①および②どちらのデータについても、学習者のデータだけでなく、母語話者のデータも使い、比較を行っている。まず①コーパスの分析の結果、コロケーションの数は延べ、異なり共に学習者のほうが少なかったが、特定の語については過剰に使用していたとした。そして後者の要因として母語の影響を挙げている。また②のテストを分析した結果、学習者は母語話者より組み合わせ可能としたものが少なかったが、様々な組み合わせを可とする傾向があった。そしてこの2つの結果から、学習者はコロケーションを使用するが、母語話者のようなコロケーションはあまり使わず、非典型的なコロケーションを使う、と述べた。

こうした Granger (1998) の主張を裏付ける研究として、小林 (2005) が挙げられる。この研究は、日本人英語学習者とアメリカ人英語母語話者の書き言葉コーパスを比較し、学習者の特徴を分析したものである。分析は「have+名詞」および「have+形容詞+名詞」

<sup>1</sup> 「返事がする」は、例えば以下のように使われる。

3番目の女子トイレのドアを3回ノックして、

「花子さあん」

と呼ぶと、「はあい」と返事がする。

(<http://www.asahi-net.or.jp/~IH9K-YNMT/ver5/legend/school1.html/> 2007.1.2 検索)

のコロケーションについて行った。その結果、学習者は「have＋名詞」のコロケーションを母語話者よりも多く使っているが、「have＋形容詞＋名詞」は母語話者より少なく、「学習者はコロケーションを使用してはいるが、その用法が母語話者と同じではないことが英語としての不自然さにつながる」（小林 2005：65）と述べている。

以上のように、英語のコロケーション習得に関する研究は、数だけでなく分析対象も「動詞＋名詞」や「動詞＋副詞」など様々なものが行われている。一方日本語のコロケーション習得に関する研究は、曹・仁科の一連の研究において「形容詞・形容動詞＋名詞」のコロケーションについては明らかになりつつあるが、動詞と名詞のコロケーションについては十分であるとはいえない。本研究では以上のことをふまえ、動詞と名詞のコロケーションについて分析を行う。

### 3. 本研究の概要

#### 3.1. 研究設問

本稿では、動詞と名詞のコロケーションについて、中級レベルにある学習者と母語話者で違いが見られるか、見られるとすればどのような違いかということを明らかにする。

#### 3.2. 対象者

本研究の対象者は、台湾の大学で日本語を主専攻として学習している学習者 26 名である<sup>2</sup>。全員 2 年生で、中級前半レベルである。この学習者たちは全員、入学時学習歴ゼロで、1 年間をかけて『新文化初級日本語』の 1 と 2 を終えている。データ収集時は、2 年生に進級して 3 ヶ月が経過したところである。

母語話者のデータは、日本語母語話者の大学生に依頼し、収集した。学習者と同じ 2 年生で、13 名から協力を得ることができた。

#### 3.3. 分析の範囲

動詞「する」は多義語であり、コロケーションをなす名詞も様々なものが存在する。そのため、分析の前にその意味とコロケーションについて整理し、分析の範囲を定める必要がある。

動詞「する」の意味・用法について、網羅的に分析・記述しているのは、辞書のほかに森田（1991）がある。この分析では、(1) 他動詞、(2) 自動詞、(3) 他の語に付いて全体を動詞化させる機能、と大きく 3 つに分け、(1) と (2) についてはさらにそれぞれ 4 つに分けて分析している。

---

<sup>2</sup> この対象者は、東京外国語大学大学院グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」（代表：峰岸真琴）における「TUFS 日本語学習者コーパス」構築のためのデータ収集に協力してもらっている学習者である。対象者は、2009 年 2 月から 6 月にかけて e-learning システムを用いて作文を提出しており、筆者はこのデータの収集とコーパスの構築を行っている。

【表1：森田（1991）による分析】

(1) 他動詞「する」

意味・用法		例
1. 「AハCヲ する」 最も一般的 な「する」の 用法。	(1) 状態・無意志	かわいい顔をした赤ちゃん
	(2) 行為・無意志 (動作性の生理活動)	息をする
	(3) 行為と状態・意志 (装身具などを身に着けること)	ネクタイをする
	(4) 行為・意志	(ア) ある任務・役職・ 職業につく。商売などを 営業する  (イ) 日常の動作・行 為・活動をなす
2. 「BニCヲする」 ある行為を行うとき、相手Bに対してなされる場合		彼女に電話をする、患者に注 射をする、箱の内側にちよっ とした細工をする
3. 「CヲDニする」 対象CをDの状態に変える“化成”		息子を医者にする、静かにし なさい、千円札を細かくする
4. 「…CヲEニする」		耳にする、口にする

(2) 自動詞「する」

意味・用法	例
5. 「…ガする」 感覚器官などでとらえられる現象。	音がする、においがする、寒気がする
6. 「…トする」 副詞や形容詞	気がついてはっとした。そこにじっとしていなさい。
7. 「…ハ…数量…する」	一個が千円もする。5時間もしたら着くでしょう。
8. 「…ハ…ニする」 “…に決める”	新婚旅行はハワイにしよう。

(3) 他の語に付いて全体を動詞化させる機能。いわゆるサ変動詞を作る働き。

	例
(1) 和語名詞+する	汗する, うわさする, くしゃみする, だっこする
(2) その他の和語+する	青々する, 寒々する, しゃんとする, がっかりする
(3) 漢語名詞+する	運動する, 研究する, 練習する
(4) 外来語名詞+する	パスする, ヒットする, アルバイトする
(5) お・和語名詞+する	お招きする, お誘いする, お願いする
(6) ご・漢語名詞+する	ご招待する, ご報告する, ご連絡する
(7) 和語・ん+する	甘んずる, 重んずる, 先んずる
(8) 字音語+する	害する, 命ずる
(9) 字音語+とする	れっきとする, 寂とする

本研究では、テストの作成および分析において、森田（1991）の分類を採用し、表 2 のように番号をつける。ただし、森田（1991）分析 3 の（5）～（9）は、初級段階では導入されない用法であり、他の用法よりやや特殊であるため、対象としない。

【表 2：森田（1991）と本研究での番号】

	森田（1991）	本研究での番号
分析 1	1 (1) 【状態・無意志】	A1-1
	1 (2) 【行為・無意志】	A1-2
	1 (3) 【行為と状態・意志】	A1-3
	1 (4) (ア) 【役職等】	A1-4-1
	1 (4) (イ) 【日常の動作等】	A1-4-2
	2 【相手あり】	A2
	3 【化成】	A3
	4	A4
分析 2	5 【感覚器官】	B1
	6 【副詞・形容詞】	B2
	7 【数量・価値】	B3
	7 【時間】	B4
	8 【決定】	B5
分析 3	(1) ～ (4) 【サ変動詞】	C

### 3.4. 産出テストの作成と実施

#### 3.4.1. 実施するテストの形式

コロケーションの習得研究においてこれまでに用いられたテストの形式は、Farghal and Obiebat (1995) が用いたタイプ (名称「穴埋め」)、Farghal and Obiebat (1995) が教師経験者に対して用いたタイプ (名称「翻訳」)、Granger (1998) と小森 (2003) が用いたタイプ (名称「組み合わせ」)、曹・仁科 (2006b) が用いたタイプ (「自由連想形式」) の4つに分けることができる。「穴埋め」タイプのテストは、様々なコロケーションを文脈とともに示すことができるが、分析したい語が絞られている場合、テストに工夫をしなければならない、という問題がある。たとえば、本研究のように動詞「する」とのコロケーション、と分析する語を絞っている場合、見たい項目についてのみで構成されたテストでは、答えがすべて「する」になってしまう。ただし、この点については「する」とは関係のない問題文を入れることにより、解決できる。「翻訳」タイプのテストは、学習者の母語についての分析が可能でなければ実施できないとの制約があるため、本研究では実施しない。「組み合わせ」タイプのテストおよび「自由連想形式」は、分析したい語が絞られている場合、その語との組み合わせ可能性について一度にたくさん見ることができ、本研究のようなものに合っているように思える。しかし2で述べたように鈴木 (2009) で、コロケーションの誤用には、組み合わせを誤っているものと、組み合わせは正しくても使用する文脈が誤っているものがあるという指摘をしており、この2つのタイプでは、文脈を示すことができないため、後者の誤りについて見ることができない。以上の理由で、本研究では名詞を文脈と共に与え、助詞と動詞を入れる「穴埋め」タイプのテストを行うことにした。

「穴埋め」形式のテストの場合、通常空欄に入る答えは1つである。しかし今回は、「答えが複数考えられる場合は、すべて書いてください。」という指示を加えた。これにより、ある名詞に対してどのような動詞が可能か、「する」に限らず見ることができる。以下は、問題の指示文にのせた例である。

例1) 私は昨日、学校 [     ] (                    ) た。

      で    勉強しまし

      へ   行きまし

例2) 私は昨日、学校で勉強 [     ] (                    ) た。

      を        しまし

      ×        しました

例1のように、入れる動詞によって文の意味がかわってもよく、また、例2のように格助詞を伴う形と、伴わないサ変動詞の形、両方可能だと思ったらそのように書く、という指示である。

#### 3.4.2. 語彙の選択と問題文の作成

まず、対象者である学習者が使用した『新文化初級日本語』1・2の中で、どのような名詞が「する」と共起して現れているかを調べた。これを、「する」の意味・用法で分類すると、次のようになる。

【表3：『新文化初級日本語』で「する」と共に用いられている語】

番号	
A1-1	〈なし〉
A1-2	けが, 下痢, やけど
A1-3	ふた, コンタクトレンズ, イヤリング, エプロン, 時計, ネクタイ, ネット クレス, 指輪, ベルト
A1-4-1	〈なし〉
A1-4-2	そうじ, 料理, 勉強, 買い物, スポーツ, テニス, アルバイト, 仕事, 宿 題, 練習, 散歩, 準備, 食事, 説明, 洗濯, 手続き, 予約, 朝ねぼう, い ろいろなこと, うがい, 運転, 運動, 贈り物, お見合い, 経験, 検査, 交 換, 住所変更, ジョギング, 診察, スケッチ, 遅刻, 手伝い, 復習, 放送, ボウリング, 待ち合わせ, 面接, 約束, 夜更かし, 旅行, 連絡, 写真撮影, パソコン
A2	電話
A3	大きく, 短く, 弱く, きれいに, 静かに
A4	楽しみ
B1	寒気
B2	ゆっくり, びっくり
B3	〈なし〉
B4	3泊
B5	別のところ, 和食
C	<p>(a) 助詞を伴う形(～をする)とサ変動詞の形が両方載っているもの 朝ねぼうする, アルバイトする, お見合いする, 買い物する, 検査する, 交換する, 散歩する, 準備する, 食事する, 診察する, スケッチする, 説 明する, 洗濯する, そうじする, 電話する, 復習する, 勉強する, 放送す る, 夜更かしする, 予約する, 料理する</p> <p>(b) サ変動詞の形のみ載っているもの インタビューする, 運転する, 遠慮する, 外出する, 活躍する, 帰国する, 休憩する, 協力する, 経営する, 結婚する, 欠席する, 見学する, 研究す る, 合格する, 故障する, コピーする, 試着する, 質問する, 失礼する, 就職する, 受験する, 出席する, 出発する, 紹介する, 招待する, 進学す る, 心配する, 推薦する, 生産する, セットする, 退院する, 退学する, 誕生する, チェックインする, 提出する, デザインする, 入院する, 拝見 する, 発達する, 反対する, びっくりする, 報告する, 訪問する, メモす る, 約束する, 優勝する, 輸出する, 輸入する, 利用する, 旅行する, 練 習する, 連絡する, 録音する, 録画する</p>



表1, 表3および『新文化初級日本語』の語彙リスト, 『日本語能力試験出題基準』の3級語彙リストをもとに語彙およびコロケーションを選択した。同時に, 「服を着る」と「派手な服装をする」のように, 類義語でコロケーションをなす動詞が違う例や, 「この辞書は5000円します」と「旅行は全部で10万円かかります」のように文脈でコロケーションをなす動詞が違う例を考え, それも問題文として入れることにした。

【表4：産出テストのために選択したコロケーション】

番号	回答に「する」が考えられるもの	回答に「する」が考えられないもの
A1-1	(1) 赤い顔をする (2) 派手な服装をする (3) つまらない生活をする (4) 女の子みたいな話し方をする	(5) 派手な服を着る
A1-2	(6) やけどをする (7) 息をする	(8) かぜをひく
A1-3	(9) ネクタイをする (10) ふたをする	(11) 帽子をかぶる
A1-4-1	(12) 教師をする (13) 看護師をする	(14) 大学生になる
A1-4-2	(15) プレゼントをする (16) 演奏会をする (17) コンサートをする	
A2	(18) メールをする (20) 電話をする (21) 返事をする	(19) 手紙を書く (22) 「はい, 行きます。」と答える
A3	(23) 来週にする (24) 大きくする	(25) 今は私の部屋になる
A4	(26) 楽しみにする (27) 耳にする	
B1	(28) 声をする (29) 寒気がする	
B2	(30) ゆっくりする	
B3	(31) (この辞書は) 5000円する	(32) (今回の旅行は) 10万円かかる
B4	(33) 三泊する	(34) (東京駅ホテルに) 水曜日に泊まる
B5	(35) 京都にする (36) ラーメンにする	
C	(37) 優勝する (38) 買い物をする	

また、「する」の意味とは全く関係のない問題として、次の7つを入れた。

(39) 辞書をひく, (40) 右にまがる, (41) 日本語を習う, (42) 薬を飲む, (43) エアコンをつける, (44) 切符が出る, (45) おなかがすく

以上45問について、日本語能力試験の3級までの語彙を使って問題文を作った。出題順による差をなくすために、問題用紙(A)と、出題順を全く逆にした問題用紙(B)を用意した(問題用紙(A)は附録参照)。学習者の実施時間は約30分で、となり同士で問題用紙が異なるよう配布した。また母語話者にはメールで問題用紙と回答用紙を送付し、記入の上返信してもらった。

#### 4. 結果と考察

以下でテスト回答の集計と、分析結果について述べる。1で述べたように、本研究では「名詞1語と動詞1語」のコロケーションを分析の対象とし、問題でも「助詞と動詞を記入する」と指示をした。そこで、動詞の欄に「×」がつけられたもの(例:(1), (8))および動詞の欄に2語以上記入があるもの(例:(13))は無効回答として分析の対象としない。

(1) 赤ちゃんが赤い顔 [で] ( × ) 泣いています。

(8) 頭が痛いです。なぜ [×] ( × ) かもしれません。

(13) 私の母は看護婦 [の] (仕事をしてい) ます。

ただし、次のような「～に行く」、「～ていく」、「～てくる」については分析の対象とする。

(16) 来週、私はピアノの演奏会 [を] (聞きに行きます)。

(30) いらっしやい。ゆっくり [×] (して行って) ください。

コロケーションは、1つの名詞に対して「助詞+動詞」で1つ、と数える。すなわち、同じ動詞を記入していても、助詞が違う場合には異なるコロケーションとして扱う。ただし、次のものは同じであると見なす。

(A) 漢字で書かれているものとひらがなで書かれているもの

(20) 毎日夜10時に、彼女に電話 [を] (かけ/掛け) ます。

(B) 複数の漢字が考えられるもの

(16) 来週、私はピアノの演奏会 [を] (聞きに行きます/聴きに行きます)。

(C) 表記・活用の誤用

(3) 毎日つまらない生活 [を] (過ごして/過ごして) います。

(5) そんな派手な服 [を] (着て/着って/着いて), どこへ行くんですか。

(D) 話し言葉と書き言葉

(30) いらっしやい。どうぞゆっくり [×] (して行って/してって) ください。

(E) テンス・アスペクトの違い

(4) 彼は女の子みたいな話し方 [を] (し/してい) ますね。

(16) 来週、私はピアノの演奏会 [に] (行きます/行きました)。

以上をふまえ、学習者、母語話者それぞれの回答の集計と、分析結果を述べる。なお、以下の表では母語話者を NS、学習者を NNS と表記する。

#### 4.1. 全体の傾向

まず、回答として書かれたコロケーションの異なり数を比較する。表 5 は、母語話者と学習者の差上位 5 つと下位 5 つをまとめたものである。

【表 5：問題ごとの回答数（異なり）】

番号	問題	NS	NNS	NS-NNS
(39)	辞書 [ ] ( )	15	5	10
(42)	菓 [ ] ( )	10	3	7
(40)	右 [ ] ( )	9	4	5
(35)	京都 [ ] ( )	14	9	5
(37)	優勝 [ ] ( )	14	10	4
(24)	大きく [ ] ( )	2	7	-5
(25)	今は私の部屋 [ ] ( )	3	10	-7
(26)	楽しみ [ ] ( )	2	9	-7
(27)	耳 [ ] ( )	3	11	-8
(28)	話している声 [ ] ( )	4	15	-11
	合計	322	364	-42
	平均	7.16	8.09	-0.93

回答の異なり数を比較すると、母語話者のほうが学習者より多いのは 45 問中 15 問だけであった。合計および平均を見ても学習者のほうが多いことが分かる。これは、形容詞および形容動詞とのコロケーションについて分析を行った曹・仁科（2006）とは異なる結果である。同研究では、産出された表現の延べ数・異なり数共に母語話者のほうが多かったことから、「母語話者は学習者より産出した表現にバラエティがあり、豊かである」（曹・仁科 2006：32）と述べている。本研究ではこの指摘は否定されるものであろうか。それを探るために、1 つの問題に対して 1 人の回答者がいくつ答えを書いたかについて、母語話者平均と学習者平均の差上位 5 つと下位 5 つを表 6 にまとめた。

【表6：1つの問題に対しての1人の回答数】

番号	問題	NS	NNS	NS-NNS
(39)	辞書〔 〕 ( )	2.85	1.00	1.85
(18)	メール〔 〕 ( )	2.54	0.92	1.62
(36)	ラーメン〔 〕 ( )	2.62	1.04	1.58
(41)	日本語〔 〕 ( )	2.62	1.08	1.54
(30)	ゆっくり〔 〕 ( )	2.46	1.08	1.38
(27)	耳〔 〕 ( )	1.15	0.88	0.27
(26)	楽しみ〔 〕 ( )	1.08	0.88	0.19
(38)	買い物〔 〕 ( )	1.38	1.19	0.19
(24)	大きく〔 〕 ( )	1.08	0.96	0.12
(14)	大学生〔 〕 ( )	1.08	1.04	0.04
	平均	1.89	0.99	0.89

これを見ると、学習者は母語話者より回答数が少ないことが分かる。学習者の場合、1つの問題に1つの回答、というパターンが最も多く、複数の回答がまったくない学習者も16人いた。それに対して母語話者は、ほぼすべての回答者がほとんどの問題について2つ以上の回答を書いており、問題によっては5~6つの回答が見られた。この学習者と母語話者の差については、2つのパターンに分けることができる。

まず1つ目は、ほぼ同義のコロケーションがあり母語話者はその2つ（またはそれ以上）を書いているが、学習者は1つしか書いていない場合である。たとえば、問題18の「メール（ ）〔 〕」の場合、母語話者は「を送る」「をする」「×する」など少なくとも2つを書いているが、学習者の場合2つ以上記入したのは26人中2人であった。問題20の「電話（ ）〔 〕」も同様に、母語話者は全員が、「をかける」、「をする」、「×する」の3つから少なくとも2つ（「をかける」と「をする」または「×する」）を記入した（母語話者平均2.38）。しかし学習者はどちらか一方しか記入しておらず、2つ以上記入したのは26人中4人であった（学習者平均1.31）。問題39「辞書（ ）〔 〕」の場合、母語話者は「をひく」「で調べる」などを記入したが、学習者は「で調べる」が最も多く、「をひく」を記入したのは1人だけであった。これについては、『新文化』で「辞書をひく」というコロケーションが提出されていないため、これを知らなかったという可能性もある。しかし前述の問題20については、「電話をする」と「電話をかける」という表現の片方しか知らないということは考えにくい。すなわち、コロケーションを知っていても、使えない（使わない）こともあるといえる。

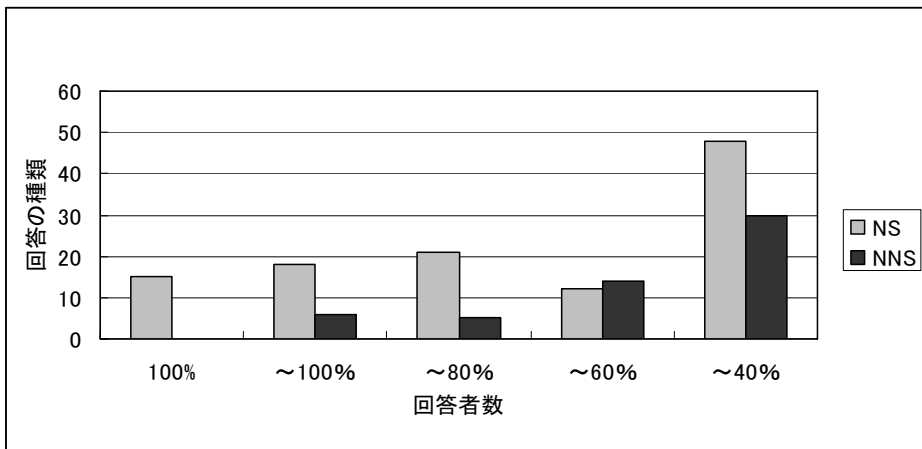
2つ目は、様々な場面を想定できるか、という発想の問題である。たとえば問題15「プレゼント（ ）〔 〕」の場合、母語話者の回答は「を買う」「をあげる」「を送る」など様々なものがあつた（母語話者平均2.62）。しかし学習者の場合、回答は1つまたは2つ（1人だけ4つ）であった（学習者平均1.27）。

このことから、曹・仁科（2006）の指摘の通り、母語話者はバラエティ豊かな表現を産出していると言える。一方学習者は、1つの表現を繰り返し使っていることが予測される。その理由として、母語話者に比べ学習者はある特定の語と語の結びつきが固定していること、また、その結びつきの強さにも差があることが考えられる。例えば「電話をする」と「電話をかける」についていえば、両方の表現を知っていたとしても、その結びつきの強さに差がある場合、どちらか一方のみをよく使うと推測される。

では、表5のように、異なり数が学習者のほうが多かったのはなぜか。母語話者の場合、1人の回答数は多いが異なり数は少ないということは、母語話者間で共通する回答が多いと言える。逆に学習者は、1人の回答数は少ないが異なり数は多い。このことから、母語話者が共通したコロケーションを持っているのに対し、学習者は持っていないと考えられる。これは、次の表7および図1を見ても明らかである。

【表7：回答の集中度】

	NS	NNS
100%	15	0
80%~100%	18	6
60%~80%	21	5
40%~60%	12	14
20%~40%	48	30
0%~20%	208	309
合計	322	364



【図1：回答の集中度】

これは、1つの回答を全体の何%の人が書いたかを集計し、まとめたものである。例えば、

全員が同じ回答を書いたのは、母語話者は 322 の異なり数のうち 15 個、学習者は 364 の異なり数のうち 0 である。全体で最も多いのは 0%~20%で、母語話者、学習者共にどのようなコロケーションを産出するか個人によって差があることを示している。一方母語話者の半数以上が同じ回答を書いたのは、322 個中 61 個であるのに対し、学習者の場合 364 個中 19 個と、大きく差がある。このことから、前述の通り学習者は母語話者よりも共通して持っているコロケーションが少なく、それぞれが様々なコロケーションを持っていると考えられる。

次に、それぞれの問題について回答者数が最も多かったものを比較する。45 問中、学習者と母語話者とで最も多かった回答が異なつたのは 17 問であった。この 17 問について、次の表 8 にまとめた。

【表 8 : 回答者数 1 位の比較】

番号	問題	回答	NS		NNS	
			人数	%	人数	%
(2)	派手な服装 [ ] ( )	をする	13	100%	7	27%
		を着る	0	0%	15	58%
(3)	つまらない生活 [ ] ( )	を送る	9	69%	4	15%
		をする	5	38%	8	31%
(16)	演奏会 [ ] ( )	に出る	7	54%	1	4%
		に行く	3	23%	8	31%
(17)	コンサート [ ] ( )	がある	12	92%	3	12%
		に行く	0	0%	9	35%
(18)	メール [ ] ( )	をする	10	77%	4	15%
		を送る	10	77%	6	23%
(22)	「はい、行きます。」 [ ] ( )	と答える	12	92%	7	27%
		と言う	10	77%	15	58%
(27)	耳 [ ] ( )	にする	13	100%	0	0%
		に聞き	0	0%	6	23%
		に着く	0	0%	6	23%
(30)	ゆっくり [ ] ( )	×して行く	7	54%	0	0%
		×召し上がる	0	0%	10	38%
(31)	5000 円 [ ] ( )	×する	10	77%	2	8%
		でございます	1	8%	6	23%
(32)	全部で 10 万円 [ ] ( )	×かかる	10	77%	2	8%
		をかか	0	0%	9	35%
(33)	三泊 [ ] ( )	×する	12	92%	1	4%
		にする	0	0%	8	31%

(34)	ホテルに水曜日 [ ] ( )	に泊まる	5	38%	2	8%
		に着く	5	38%	2	8%
		にする	0	0%	4	15%
(35)	京都 [ ] ( )	に行く	11	85%	5	19%
		へ行く	4	31%	19	73%
(36)	ラーメン [ ] ( )	にする	12	92%	7	27%
		を注文する	4	31%	9	35%
(38)	買い物 [ ] ( )	をする	11	85%	4	15%
		に行く	2	15%	19	73%
(39)	辞書 [ ] ( )	を引く	8	62%	1	4%
		で調べる	8	62%	13	50%
(44)	切符 [ ] ( )	が出てくる	11	85%	1	4%
		が出る	3	23%	21	81%

表 8 の 17 問のうち、学習者しかその回答を書かなかったのは 7 問である。この 7 問は、次の 3 つのパターンに分けることができる。

まず、そのコロケーションを知らないと考えられるものである。

(2) 彼女はいつも派手な服装 [ ] ( ) います。

この問題は、学習者は「を着る」を書いた人のほうが多かったが、母語話者は「をする」を全員が書いており、「を着る」という回答は見られなかった。類義語である問題 5 「服を着る」も、「を着る」という回答が最も多かったことから、学習者の「服装を着る」という回答は「服」からの推測であると考えられる。

(27) 彼についての悪い話を耳 [ ] ( ) ました。

これは、学習者は「に聞く」または「につく」を書いた人が多かったが、母語話者は「にする」を全員が書いている。「に聞く」はおそらく「話」からの推測で、「につく」は「耳につく」という慣用句を書いたと考えられる。このパターンは、鈴木 (2009) の「結びつきの誤り」にあたるものである。

2 つ目のパターンは、文脈に対する意識の違いである。

(17) 明日、國家音樂廳でピアノのコンサート [ ] ( ) 。

この問題は、場所を表す助詞「で」があるため、学習者が最も多く書いた「に行く」は明らかに誤りである。類義語である問題 16 の「演奏会」も、「に行く」が最も多かったこと

から、「國家音樂廳で」というところを見落としているものと考えられる。また、次のように誤用ではないものの母語話者と学習者とで異なる回答があったものもある。

(30) いらっしやい。どうぞゆっくり〔 〕( ) ください。

最も多かった回答は、学習者が「×召し上がる」、母語話者が「×して行く」である。学習者は「×食べる」という回答も5人(19%)が書いており、「×召し上がる」と合わせると半数を超える。これは、「いらっしやい。」という最初の文から、母語話者は家に人が来た場面であると解釈したのに対し、学習者は店員が客に言うあいさつ「いらっしやいませ。」と同じだと解釈したと考えられる。このパターンは、鈴木(2009)の「文脈上の誤り」にあたるものである。

3つ目のパターンは、助詞の問題である。

(32) 今回の旅行は、全部で10万円〔 〕( ) ました。

(33) 今度の旅行では、大阪ホテルに三泊〔 〕( ) 予定です。

この2つの問題はどちらも、母語話者と同じ動詞を書いた学習者が多かったが、助詞が異なった。この2問に限らず、動詞は母語話者と同じであるが助詞が異なっている回答は少なからずあり、今回分析の対象とした学習者の場合、動詞と名詞を正しく結びつけることができても、さらにその先に助詞という問題があることが伺える。また、次の問題のように、母語話者と学習者とで選択した助詞に大きく差があったものもあった。

(35) 今度の社員旅行は京都〔 〕( ) ます。

表8の通り、母語話者は「に行く」が、学習者は「へ行く」が最も多かった。初級段階では「へ行く」が主に使われるためこのような結果になったと考えられるが、母語話者の動詞「行く」と助詞「に」、「へ」とのコロケーションの強さに差があることも予測できる。ただし、今回用いたテストは動詞と名詞の結びつきを重視して作成したため、助詞についてはさらにデータを収集した上で検証する必要がある。

## 4.2. 動詞「する」とのコロケーションについての比較

次に、「する」が回答として考えられる、とした問題について考察する。このような問題は45問中29問あり、この中で母語話者、学習者ともに「する」が最も多く書かれた問題は以下の15問である。

(1) 赤い顔をする、(4) 女の子みたいな話し方をする、(6) やけどをする、(7) 息をする、(9) ネクタイをする、(10) ふたをする、(12) 教師をする、(13) 看護師をする、(21) 返事をする、(23) 来週にする、(24) 大きくする、(26) 楽しみにする、(29) 寒気がする、(33) 三泊する、(37) 優勝する



一方「する」が最も多く書かれた回答ではなかったのは母語話者が8問、学習者が13問であった。これを①母語話者、学習者ともに「する」ではない回答が最も多く書かれたもの、②母語話者は「する」が多かったが学習者はそれ以外が多かったもの、③学習者は「する」が多かったが母語話者はそれ以外が多かったもの、という3つのグループに分けた。まず、①について最も多かった回答とともに表9にまとめた。

【表9：母語話者、学習者ともに「する」ではない回答が最も多く書かれた問題】

番号	問題	回答	NS		NNS	
			人数	%	人数	%
(15)	プレゼント [ ] ( )	を買う	9	69%	8	31%
		をする	3	23%	1	4%
		×する	1	8%	0	0%
(16)	演奏会 [ ] ( )	に出る	7	54%	1	4%
		に行く	3	23%	8	31%
		をする	2	15%	1	4%
(17)	コンサート [ ] ( )	がある	12	92%	3	12%
		に行く	0	0%	9	35%
		をする	4	31%	1	4%
(20)	電話 [ ] ( )	をかける	11	85%	13	50%
		×する	10	77%	4	15%
		をする	8	62%	11	42%
(28)	話している声 [ ] ( )	が聞こえる	13	100%	8	31%
		がする	10	77%	2	8%
		をする	0	0%	2	8%
(30)	ゆっくり [ ] ( )	×して行く	7	54%	0	0%
		×召し上がる	10	38%	0	0%
		×する	6	46%	4	15%
		とする	1	8%	0	0%
(35)	京都 [ ] ( )	に行く	11	85%	5	19%
		へ行く	4	31%	19	73%
		にする	3	23%	3	12%

この中で、特に回答者が少なかった問題15, 16, 17は、動詞「する」の意味分類番号ではA1-4-2に入る。このことから、動詞「する」の様々な意味のうちA1-4-2すなわち森田(1991)の言う「日常的な動作」を表すものとコロケーションをなす名詞は、他の様々な動詞ともコロケーションをなし、「する」との結びつきは特別強くないと考えられる。その理由としては、この意味の「する」には動作を表すということ以外の意味がなく、その“内容”に

について述べることができないからであると推測される。たとえば問題 15「プレゼントをする」の場合、母語話者、学習者共に最も多かったのは「を買う」で、次いで「をあげる」、「を送る」などの回答があった。問題文の文脈ではプレゼントを買ったのか、あげたのか、送ったのか、など“内容”を表すためには、「する」では不十分であるため、「プレゼントをする」という回答が母語話者、学習者ともに少なかったと考えられる。問題 35 もこの 3 問と同様回答者が少なかった。これについては「今度の社員旅行は京都〔 〕( )」という問題文から、「決める」という意味が想像しにくかったのではないと思われる。

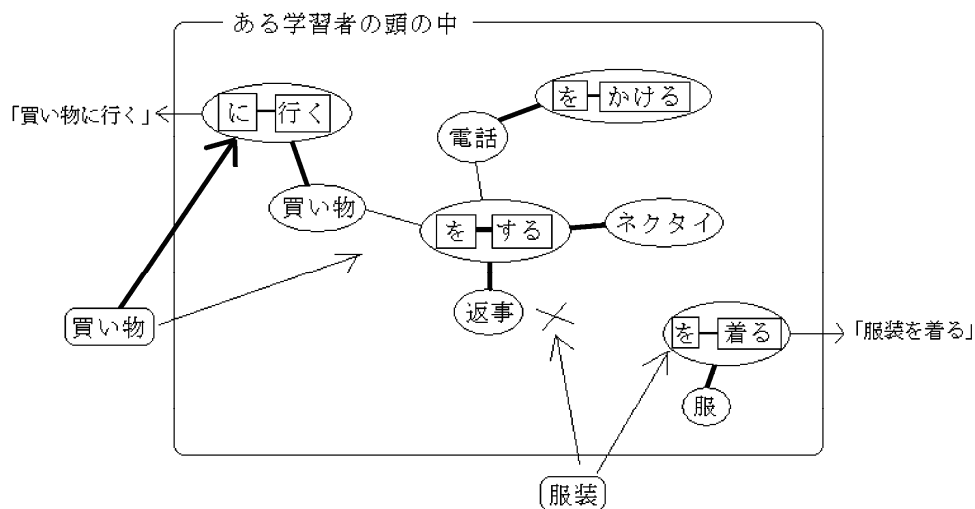
問題 20, 28 については、母語話者は「する」という回答を半数以上の人記入しており、問題 30 についても最も多かったのが「して行く」であったこともあわせて考えると「する」との結びつきはある程度の強さを持っていると考えられる。それに比べ学習者は、どの問題も「する」という回答を記入したのは半数以下となっている。問題 28 については、「声にする」というコロケーションが『新文化初級日本語』に出てこないため、知らなかった可能性が高い。しかし問題 20「電話をする」については、「電話する」が第 13 課、「電話をする」が第 21 課で導入され、繰り返し使われている。「電話をかける」の初出は第 29 課であることから、「電話をかける」を知っていて「電話をする」を知らなかったということは考えにくい。4.1.でも述べたように、コロケーションの結びつきの強さに差があり、知っていても使わない（使えない）ことがあると考えられる。

次に、②母語話者は「する」が多かったが学習者はそれ以外が多かったものについて考察する。この②は 7 問 ((2)「派手な服装をする」、(18)「メールをする」、(27)「耳にする」、(31)「5000 円する」、(36)「ラーメンにする」、(38)「買い物をする」)であった。②の 7 問の中で、問題 2, 18, 27, 31 は『新文化初級日本語』には出てこないコロケーションで、未習である可能性がある。そのため、どの問題も類義語から想像したり(問題 2)、文脈から関連する語を入れたり(問題 27)したと考えられる。一方問題 36 の意味は、『新文化』では「和食にする」というコロケーションが提出されている。これについては、「する」の複数ある意味の中でも典型的な意味ではなく、初級段階での使用頻度もそれほど高くないと考えられるため、学習者の中でコロケーションが形成されていないか、ごく弱いものであることが予測される。しかし問題 38 は、「する」の意味の中でも典型的なものであると考えられ、「買い物をする」というコロケーションを全く知らない、ということは考えにくい。問題 20 の「電話をする」と同じように、「買い物をする」というコロケーションを知っていても「に行く」とのコロケーションのほうが強く、「する」が出にくいのではないと思われる。

③学習者は「する」が多かったが母語話者はそれ以外が多かったものは、1 問 ((3)「生活をする」)だけであった。母語話者で「する」を記入したのが 13 人中 5 人 (38%) だった原因として考えられるのは、「つまらない生活」という修飾語の存在である。修飾語のない文、たとえば「私は去年から東京で生活〔 〕( )。」「というような問題であったら、結果は異なっていた可能性はある。

学習者の回答について、動詞「する」の回答に注目してみると、学習者の半数以上が同じ回答を記入した 19 個のうち、「する」という回答は問題 9「ネクタイをする」と問題

21「返事をする」の2つだけであった。前述のように②が7問あったこととあわせて考えると、学習者は母語話者に比べて「する」を使わないのではないかと予測できる。すなわち、学習者は「する」と共起する名詞を持っているが、頭の中で「する」と結びついていない名詞と出会ったとき、「する」ではなくほかの動詞を選択している可能性がある。また、「する」と結びついている名詞があっても、その名詞と他の動詞が、「する」と結びついた場合と同じような意味で使われる場合、「する」ではないほうの動詞を選択していることも考えられる。これをいくつかの語を例に図にすると次のようになる。



【図2：学習者言語における動詞「する」を中心としたコロケーション】

「をする」を中心に考えると、その周辺には「ネクタイ」や「返事」、「電話」など様々な名詞が存在する。太い線で強い結びつきを、細い線で弱い結びつきを表した。どのような名詞が、どのような強さでコロケーションをなしているか、というのは個人差があるが、この図のようになっているとすると、「買い物をする」よりも「買い物に行く」が強い結びつきを持っているため、後者を使うことが多くなると推測できる。また、「服装」という新しい言葉が入ってきた場合、「をする」ではなく「服」という類義語に引かれて「を着る」を選択することが多いと考えられる。

## 5. おわりに

本稿では、動詞と名詞のコロケーションについて産出テストを用いて分析を行った。その結果として、次の3点が挙げられる。

- (1) 回答の異なり数は母語話者より学習者のほうが多かったが、個人の回答数は母語話者のほうが多かった。このことから、母語話者に比べ学習者は決まった表現を使ってい

る可能性があると言える。その理由として、ある特定の語と語の結びつきが固定していたり、その結びつきの強さに差があったりすることが考えられる。また、母語話者は共通したコロケーションを持っているのに対し、この段階にある学習者はそれが少ないか、持っていないと思われる。

(2) 各問題について最も多くの人を書いた回答を比較すると、母語話者と学習者とでそれが異なっただけは 45 問中 17 問で、その中で学習者しか書かなかった回答は 7 問であった。これは、①コロケーションを知らないと考えられるもの、②文脈に対しての意識が異なっただけと考えられるもの、③助詞が異なっているもの、といふ 3 つのパターンに分けられた。このことから、名詞と動詞のコロケーションの使用においては、名詞と動詞の組み合わせ、それが使われる文脈、助詞という 3 つの点を考える必要があると言える。

(3) 動詞「する」とのコロケーションについて比較すると、学習者は母語話者より「する」という回答が少なかった。コロケーションを知らない可能性があるものもあったが、知っていると考えられるのに回答が少ないものもあった。このことから、学習者は母語話者より「する」を使わない可能性があると考えられる。

こうした母語話者と学習者の違いの一因として、先行研究で挙げられているように母語の影響が考えられる。しかし今回のデータでは、半分以上の学習者が同じ回答を書いたのは、回答の異なり数 364 個のうち、19 個だけであった。そのため、学習者それぞれが母語の影響だけではない、独自のコロケーションを持っていると考えられる。

今回の分析に用いたデータは、学習者は 26 人分、母語話者が 13 人分と、十分な量であったとは言えない。そのため、さらにデータの数を増やし、今回の結果について検証していく必要がある。特に、結果 (1) について、語と語の結びつきがどの程度固定しているのか、学習者と母語話者とでその結びつきの種類と強さはどのように異なるのか（または共通しているのか）など検証すべき課題は多い。今後さらに分析を進め、学習者言語の中で語と語がどのように結びつき、使われているのかを明らかにしたい。

## 参考文献

- 秋元美晴 (1993) 「語彙教育における連語指導の意義について」, “The Proceedings of the 4<sup>th</sup> Conference on second Language Research in JAPAN”, 28-51, 国際大学.
- (2002) 「連語の研究と語彙運用能力向上のためのその指導法」, 『総合的日本語教育を求めて』 233-246, 国書刊行会.
- 秋元美晴・川井章弘(1996)『日本語学習者の語彙力向上のための連語指導の開発とその方法』(平成 6・7 年度文部科学省研究補助金成果報告書) .
- 福島一人 (2007) 「定義されたコロケーションとその有用性：コロケーション辞典執筆の見地から」, 『情報研究』 Vol.36 253-282, 文教大学.
- 姫野昌子監修 (2004) 『日本語表現活用辞典』, 研究社.
- 門田修平(編) (2003) 『英語のメンタルレキシコン 語彙の獲得・処理・学習』, 松柏社.

- 小林多佳子 (2005) 「学習者コーパスを利用したコロケーションの分析--動詞"have"の共起表現を中心に」, 『英語コーパス研究』 No.12: 53-66, 英語コーパス学会.
- 小森早江子 (2003) 「英語を母語とする日本語学習者の語彙のコロケーションに関する研究」, 『第二言語としての日本語の習得研究』 6: 33-51, 凡人社.
- 国広哲弥 (1985) 「慣用句論」, 『日本語学』 4-1, 4-14, 明治書院.
- 松野和子・杉浦正利 (2004) 「コロケーションの定義—コロケーションの概念と判定基準に関する考察—」, 『なぜ英語母語話者は英語学習者が話すのを聞いてすぐに母語話者ではないとわかるのか』 79-95.
- 宮地裕 (1977) 「慣用句と連語成句」, 『日本語教育』 33: 1-10, 日本語教育学会.
- 森田良行 (1991) 『基礎日本語辞典』, 角川書店.
- 村木新次郎 (1991) 『日本語動詞の諸相』, ひつじ書房.
- 大曾美恵子・滝沢直宏 (2003) 「コーパスによる日本語教育の研究--コロケーション及びその誤用を中心に」, 『日本語学』 22: 234-244, 明治書院.
- 曹紅荃・仁科 喜久子 (2006) 「中国人学習者の作文誤用例から見る共起表現の習得及び教育への提言—名詞と形容詞及び形容動詞の共起表現について—」, 『日本語教育』 130, 70-79, 日本語教育学会.
- 曹紅荃・仁科 喜久子 (2006) 「自由産出調査から見る形容詞および形容動詞と名詞の共起表現: 学習者と母語話者の対照を通して (<特集>言語の学習・教育)」, 『電子情報通信学会技術研究報告. TL, 思考と言語』 Vol.106: 31-36, 社団法人電子情報通信学会.
- 鈴木綾乃 (2009) 「上級日本語学習者の動詞のコロケーションに関わる誤用—「する」を中心に—」, 『日本語教育学研究への展望 柏崎雅世教授退官記念論集』 61-77, ひつじ書房.
- 鈴木智美 (2002) 「2000 年度中級作文に見られる語彙・意味に関わる誤用—初中級レベルにおける語彙・意味教育の充実を目指して—」, 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 28, 27-42, 東京外国語大学日本語教育センター.
- 滝沢直宏 (1999) 「コロケーションに関わる誤用—日本語学習者の作文コーパスに見られる英語母語話者の誤用例から—」, 『日本語学習者の作文コーパス: 電子化による共有資源化』 77-89.
- 谷口秀治 (2001) 「日本語教育におけるコロケーションの扱い」, 『教育学研究紀要』 47, 381-386, 中国四国教育学会.
- 田野村忠温 (2009) 「コーパスからのコロケーション情報抽出--分析手法の検討とコロケーション辞典項目の試作」, 『阪大日本語研究』 21, 21-41, 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座.
- Farghal, M. and H. Obiebat (1995) Collocations: A neglected variable in EFL *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching*, 33, 4: 315-331.
- Granger, S. (1998) Prefabricated Patterns in Advanced EFL Writing: Collocations and Formulae. Cowie, A.P. (ed.), *Phraseology* Oxford: Clarendon Press. 145-160.
- Howarth, P. (1998) The phraseology of learners' academic writing Cowie, A.P. (ed.), *Phraseology*

Oxford: Clarendon Press. 161-186.

Nation, I.S.P (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*. (吉田晴世・三根浩訳 2005『英語のボキャブラリー・ラーニング』松柏社) Cambridge University Press.

Sugiura.M (2002) Collocational Knowledge of L2 Learners of English: A Case Study of Japanese Learners. Saito,T., Nakamura,J. & Yamazaki, S.(eds.), *English Corpus Linguistics in Japan*. Amsterdam: Rodopi 303-323.

## 資料

文化外国語専門学校 (2000) 『新文化初級日本語』 1, 2

国際交流基金編著 (2002) 『日本語能力試験出題基準【改訂版】』, 凡人社

附録：問題用紙（A）

請在下列的空格中填入適當的字，在〔 〕裡面填助詞，在( )裡面填入動詞。(如果覺得不需要助詞，請打×。) 如果有兩個以上的答案的話，也請全都寫下。並且請在答案紙上作答。

例 1) 私は昨日，学校〔 〕( )た。

で 勉強しまし

へ 行しまし

例 2) 私は昨日，学校で勉強〔 〕( )た。

を しまし

× しまし

1. 寒いですね。エアコン〔 〕( )ましょう。
2. 赤ちゃんが赤い顔〔 〕( )泣いています。
3. 来週東京へ行きます。まず東京駅ホテルに水曜日〔 〕( )予定です。それから横浜へ行きます。
4. やかんを倒して，やけど〔 〕( )ました。
5. 将来は教師〔 〕( )の<sup>ゆめ</sup>が夢です。
6. きのう，友だちにメール〔 〕( )ました。
7. 毎日つまらない生活〔 〕( )います。
8. そんな<sup>は</sup>で派手な服〔 〕( )，どこへ行くんですか。
9. 名前を呼ばれたら，返事〔 〕( )ください。
10. 明日，國家音樂廳でピアノのコンサート〔 〕( )。
11. 明日はハイキングの予定でしたが，天気が悪いので来週〔 〕( )ます。
12. あの赤い<sup>ぼうし</sup>帽子〔 〕( )人形がほしいです。
13. 野菜<sup>やさい</sup>を入れて，ふた〔 〕( )10分<sup>に</sup>煮ます。

14. 彼についての悪い話を耳 [ ] ( ) ました。
15. きのもう、微風廣場で買い物 [ ] ( ) ました。
16. 高校を卒業して、9月から大学生 [ ] ( ) ます。
17. 来週、日本へ行くのを楽しみ [ ] ( ) ます。
18. 頭が痛いんです。なぜ [ ] ( ) かもしれません。
19. 彼は女の子みたいな話し方 [ ] ( ) ますね。
20. 日曜日は母の誕生日ですから、プレゼント [ ] ( ) ます。
21. この人形、息 <sup>いき</sup> [ ] ( ) いるよ！ こわい！
22. 私の母は看護師 <sup>かんごし</sup> [ ] ( ) ます。
23. 来週、私はピアノの演奏会 <sup>えんそうかい</sup> [ ] ( ) 。
24. 田中先生はいつもすてきなネクタイ [ ] ( ) います。
25. おなか痛いので、薬 [ ] ( ) ました。
26. 昔の先生に、手紙 [ ] ( ) ました。
27. 今回の旅行は、全部で10万円 [ ] ( ) ました。
28. 毎日夜10時に、彼女に電話 [ ] ( ) ます。
29. 先生に「明日学校へ行きますか。」と聞かれて、私は「はい、行きます。」 [ ] ( ) ました。
30. お金を入れて、このボタンを押すと、切符 <sup>きっぷ</sup> [ ] ( ) ます。
31. すみません、よく聞こえないので音を大きく [ ] ( ) ください。
32. この部屋は、前は兄が使っていましたが、今は私の部屋 [ ] ( ) ました。



33. おなか [     ] (                    ) ました。何か食べましょう。
34. 彼女はいつも派手な服装 [     ] (                    ) います。
35. となりの部屋から、誰かが話している声 [     ] (                    ) ます。
36. 私は堀越先生に日本語 [     ] (                    ) ます。
37. 昨日から寒気 [     ] (                    )。熱があると思います。
38. 今度の社員旅行は京都 [     ] (                    ) ます。
39. いらっしゃい。どうぞゆっくり [     ] (                    ) ください。
40. この辞書は 5000 円 [     ] (                    ) ます。
41. (レストランでメニューを見て) 私はラーメン [     ] (                    ) ます。
42. 分からない言葉がありますから、辞書 [     ] (                    ) ます。
43. この道をまっすぐ。それから、あのビルの所で右 [     ] (                    ) ください。
44. 今度の旅行では、大阪ホテルに三泊 [     ] (                    ) 予定です。
45. スピーチ大会で優勝 [     ] (                    ) ました。

謝謝大家的協助!